

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

待っている「人」のもとへ。 1冊1冊、情熱と責任感を持って。

北海道札幌市の北西部に位置する手稲(ていね)区。JR手稲駅は札幌駅から函館本線で15分ほど。そこから車で約10分の山側の住宅地に、社会福祉法人アンビシャスの生活介護事業所「自由工房」があります。クロネコDM便の配達冊数は月に200〜300冊。2人のメイトさんが施設の近隣エリアを、徒歩で配達しています。



メイトさんの石川潤さん(左)と佐々木康太さん(右)。急な坂道の多いエリアを、週5日、徒歩で配達しています。冬は積雪と凍結で歩きにくくなり、とりわけ吹雪の日には転倒などの注意が必要となります。



上/DM便の仕分けをする石川さん(左)と佐々木さん(右)。下右/パウチした手書きの地図に配達先を赤くマーク。下左/ヤマト運輸のCMのお気に入りのキャッチフレーズを、Tシャツに手書きしている佐々木さん。

生活介護事業所「自由工房」がクロネコメール便事業(後にDM便)を開始したのは、2009年。職員が利用者の工賃アップのための事業を探していた時、外部研修でこの事業のことを知りました。メイトさんの希望者を募ったところ、2人が手を挙げたため、まずはチャレンジしてみようとスタート。それから約10年。2人はDM便配達という仕事に、格別の情熱と愛情を持って取り組んでいます。

すべてを任せて安心 職員は最終チェックだけ

DM便配達を担当するのは、メイトさんの石川潤さんと佐々木康太さん。仕分けから配達冊数の記録まで、すべてを任されています。地図は手

●札幌主管支店 札幌新発寒センター

面積6,663km²/人口42,497人/世帯数20,513世帯

●社会福祉法人アンビシャス 生活介護事業所「自由工房」

2009年3月、クロネコメール便(後にDM便)をスタート。1日の配達冊数は約20冊。他には、喫茶コーナーの運営、パソコン作業、バザー品の販売など。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」

参入施設数 315施設 従事者数 1,573人(2019年8月現在)

お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 DM便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達はクロネコDM便配達へと変わりました。



上/手の汗でDM便が汚れないようにと手袋をしている佐々木さん(右)。DM便を持つ、端末機操作、投函などを担当、石川さん(左)は地図の担当。配達先と配達ルートを確認します。
右上/「おはようございます、DM便です!」と元気に挨拶する佐々木さん(右)。
右/住所等をしっかりと確認して、投函する佐々木さん。



アンビジャス総合施設長の西村正樹さん(右)。「DM便の配達業務は確実にそれぞれの自信につながっている。仕事を通して、さらに可能性を広げてほしい」。「自由工房」職員の中山雄太さん(左)。「配達して分かったのは、不在票を立ちながら書くのはむずかしいこと。その場合は施設に帰り、不在票を書きこんでから、再度ポストに届けます。予め不在が予想される家には、配達前に職員が書いたものを持って行くなど、工夫しています」。

作り。新しい住宅が建つと地図に加えるなど、随時更新しています。集合住宅の転居・退去者はパソコンでリスト化。部屋番号と名前を必ず確認します。

仕分け作業では、佐々木さんがDM便の住所と宛名を読み上げ、石川さんが地図に配達先をマーク。DM便を番地順に並べて、配達ルートを決めると完了です。石川さんがお休みの金曜日は、佐々木さんがこの作業をすべて1人で行います。最後に職員の中山雄太さんがチェックして、配達の準備が整いました。

冬のホワイトアウトの日は配達を断念

「自由工房」は山側にあり、配達路の多くが坂道です。札幌市は12月から4月の終わりまで降雪期間。時には5月の初旬まで雪が降ることもあり、1年のほぼ半分、道路は雪で覆われています。雪が降ると、ロードヒーティング設備を施された道路以外は、道の両側に積み上げられた雪で道幅が狭くなって、歩きにくい状態に。とりわけ坂道は凍って滑りや

すくなるため、注意が必要です。吹雪の日など、危険だと思われる日には、職員が施設より上の山側方面だけ配達をサポートします。

また、冬季に何度かある、ホワイトアウトと呼ばれる数メートル先も見通せなくなる暴風雪の日は、職員が判断して配達を中止します。

「メイトさんがドライバーさんに直接電話をして、代わりに配達してほしいとお願ひします。仕事意識が高いので、できれば配達したいはず。でも、彼らが自分で伝えることで責任を果たしたと感じるようです」と職員の中山さんは話します。

Tシャツの背中に熱い言葉 ブログも綴る日々

「場所に届けるんじゃない、人に届けるんだ」。メイトさんの佐々木さんは、このヤマト運輸のCMのキヤッチフレーズに感動して、ユニフォームの下に着るTシャツの背中に同じ言葉を手書きしています。毎日の

配達冊数を記すノートの表紙に書いてあるのは、「ヤマト隊」というチーム名。ヤマト運輸の仕事をする事に幸せを感じていることが、そここに感じられます。

また、佐々木さんは「自由工房」のホームページに、「自由工房ゆかい日誌」というブログを連載。ブログは毎回、「ここにちは、クロネコブログ便公式担当のKです」というフレーズで始まります。「カタログが70冊もあった」というニュースや、「夏の配達は暑くて焦げるーを通り越して干からびるー」など、ユーモアたっぷりの楽しい内容も。そして、ブログの最後はいつもこのフレーズで締められています。「場所に届けるんじゃない。人に届けるんだ!また来月!」と。「ヤマト隊」の熱い想いが伝わってきます。

やりがいを感じながらの 仕事ぶりがすばらしい

ヤマト運輸札幌新発寒支店 加藤志麻支店長は、仕事ぶりに感動したと話します。「仕事にやりがいを感じていることを知ってうれしい。週に5日の配達を長く続けていることや、トラブルも事故もないことはすばらしい。エリア拡大も考えたいと語ります」。

ヤマト運輸札幌主管支店 サービスセンター 菊池光寿センター長は「誤配もほぼなく、安心して任せられます。表札のない家や引越しの多いアパートなどがたくさんあってリスク

も高い中、しっかりと対応してもらっています。期待通りの仕事ぶりでありがたい存在です」と話しました。

山を宅地開発したこのエリアには、自然が多く残っています。取材日には、配達途中で、シカの親子4頭に遭遇。時にはリスやヘビも出るそうです。

「ここはマムシに注意!」を、地図に細かく書き込むなど、配達地域をすっかり熟知しているメイトさんたち。このエリアを愛し、住んでいる方々を大切に思いながら、1冊1冊、ていねいに「人へ届けています」。



前列左から/アンビジャス総合施設長 西村正樹さん、佐々木康太さん、石川潤さん、「自由工房」職員 中山雄太さん
後列左から/ヤマト運輸札幌主管支店 サービスセンター 菊池光寿センター長、ヤマト運輸札幌新発寒支店 加藤志麻支店長、ヤマト福祉財団北海道支部 安井直子事務長